

事業報告

(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

I. 会社の現況に関する事項

1. 当事業年度における事業の経過及びその成果

当期の我が国経済は、コロナ禍での落ち込みから緩やかな回復が進むなか、労働力不足に起因する人件費の上昇、円安や資源価格の高騰による物価高といった課題が継続する一方、インバウンド需要の拡大が国内経済を牽引し、特に観光・宿泊業や外食産業において堅調な消費動向が見られました。

本県においても、金沢市を中心にインバウンド需要が4割増と地域経済の活性化に寄与する一方で、能登半島地震、奥能登豪雨の痛手は大きく、宿泊施設等の営業再開が進まない中で能登への観光入込数は大幅に減少し、県内観光入込数はコロナ前の8割弱と、観光面での回復は依然として厳しい状況が続いています。

このような経営環境のもと、当社では、2015年3月14日の開業以来、輸送の安全を最優先に取り組み、これまで大きな事故もなく、県民の皆様の日常生活の足として、また北陸新幹線の二次交通として利便性の高いダイヤ設定に努めてまいりました。2024年3月16日のダイヤ改正においても通勤時間帯を中心に計9本の増便を行い、更なる利便性の向上を図ったところであります。

こうした中での当社線のご利用状況は、合計で1,837万2千人と、経営計画で想定した1日あたり利用者数48,373人を4.0%上回る50,335人と好調に推移いたしました。

区 分	平成30年度 (コロナ禍前) 金沢以東区間 実績	令和5年度	令和6年度	令和6年度 (1日あたり)	経営計画 (1日あたり)	対経営計画 増減比
定期外利用者	2,801千人	2,675千人	6,256千人	17,141人	15,163人	13.0%
定期利用者	6,500千人	5,962千人	12,115千人	33,194人	33,210人	▲0.0%
通勤	2,788千人	2,407千人	5,156千人	14,128人	13,594人	3.9%
通学	3,712千人	3,555千人	6,959千人	19,066人	19,616人	▲2.8%
計	9,301千人	8,637千人	18,372千人	50,335人	48,373人	4.0%

※表示桁数以下端数切捨て

このようなご利用状況における当期の営業収益は、旅客運輸収入3,108,079千円、鉄道線路使用料収入1,512,287千円、運輸雑収1,504,658千円の計6,125,025千円となった一方、営業費用は、計5,933,941千円となり、営業損益は191,084千円の黒字を確保するとともに、受託工事収支等を加えた経常収支についても236,198千円の黒字となりました。国・県等からの補助金等の特別利益のほか、固定資産圧縮損などの特別損失を加えた税引前当期純損益は369,296千円、法人税等158,961千円を差し引いた当期純利益は210,335千円となり、当期末の繰越利益剰余金の額は1,006,796千円となりました。

輸送密度が低く経営が厳しいと予想された金沢以西区間を含めた県内全線開業後初の収支決算でありましたが、想定を上回るご利用に加え、J R 資産の譲渡前修繕の効果などにより線路等の修繕費が計画より減少したことなど今期特有の要因もあり、収支が好転したものであります。一方、2025年度以降の収支については、今期より課税される金沢以西延伸時に取得したJ R 譲渡資産の固定資産税の増加や、工事施工費や業務委託費、資材価格等の高騰、加えて米国の関税上乗せによる影響が懸念されるなど、引き続き厳しい経営環境にあると認識しております。

次に、県内全線開業1年目の利用促進の取り組みであります。まず地域との連携として、沿線地域で様々なイベントが開催されるゴールデンウィーク時には、沿線を3分割にした格安フリーきっぷを、また夏休み期間中には“丸いうちわ”として利用できる当社オリジナルグッズ割引券付きの全線一日フリーきっぷを発売いたしました。9月の小松基地航空祭の開催時には、早朝に多くの来場者による金沢小松間の移動が見込まれたことから6両編成の快速列車を臨時運行するとともに、記念の金沢小松往復きっぷを発売いたしました。同じく9月には東金沢駅がJ 3 ツエーゲン金沢のホーム「ゴーゴーカレースタジアム」の最寄り駅となった縁もあって“I Rに乗ってツエーゲン金沢を応援に行こう”と銘打って東金沢駅までの列車利用を促すお得なフリーきっぷを発売したところであります。また開業満10周年と県内全線開業1周年を迎えた3月14～16日には日頃のご愛顧に感謝の気持ちを込めて、沿線を3分割し、通常片道480円区間を100円で“周年記念1日デジタルフリーきっぷ”を発売しました。

また昨年誕生した当社公式マスコットキャラクター“あいまるくん”と一緒に沿線地域へのイベントへ積極的に出展いたしました。6月1日には金沢駅コンコースで「百万石まつり」のPRに、7月28日には野々市市文化会館フォルテで開催された「じょんから祭り」や、動橋駅前で開催された「動橋駅フェスティバル」に

参加しました。9月21日に開催された駅ビア小松2024では、当社無人駅の清掃業務を受託する社会福祉法人「佛子園」のご担当者の方に乗務許可証の交付を行いました。また10月5日にはカーフリーデーin金沢へ参加し、10月13日～14日には沿線自治体と地域が連携して開催した「秋の鉄道マルシェ」に参加したところであります。

次に自社企画のイベントとして、県内鉄道事業者4社連携した、各社の鉄道路線を周遊する謎解きイベント「あいまるくんのお仕事」を8月1日から11月末まで実施いたしました。8月9日には当社車両センター（通称：乙丸車両基地）において基地見学や運転士・車掌体験や、洗浄する車両での乗車体験を実施いたしました。また春夏と秋冬に分けてフォトコンテストを開催するとともに、9月にはツエーゲン金沢応援企画として、東金沢駅を赤く染めろ！と銘打ったSNS投稿キャンペーンを実施いたしました。10月19日には金沢駅において当社鉄道フェスタ2024を開催し、ほくりくアイドル部のみなさんの1日駅長やステージショーのほか、鉄道模型の展示や鉄道用品や忘れ物品の当社オリジナルグッズの販売を行いました。また車両センター（通称：乙丸車両基地）行き臨時列車の運行を行い多くの皆様にご来場いただきました。

3月には、当社線で通学される高校卒業生を対象に、これまでの鉄道利用への感謝と新しい門出を祝福して、東金沢駅ほか5駅において当社社員が制作したメッセージボードの掲出とエアリーフローラ（花）の配布を行いました。

また北陸3県連携企画として、3県の並行在来線が乗り放題になる北陸3県2dayパスを販売するとともに、秋には「駅メモ！」シリーズによる北陸3県周遊スタンプラリーを開催いたしました。列車の運行ではあいの風とやま鉄道が所有する観光列車「一万三千尺物語」を北陸3県を運行する企画に参画するとともに、ハピラインふくいの連携では、「サイクルトレイン」のトライアル運行を、あいの風とやま鉄道との連携では、「地酒列車」を運行したところであります。また当社車両基地に北陸三県の並行在来線3社とJR西日本のオリジナルカラー全5色の521系車両が留置されることから、それらを一堂に会した車両撮影会を企画・開催し、全国から多くのファンの参加をいただきました。

また、お客様が気持ちよくご利用できるように、無人駅の臨時清掃の実施と社会福祉法人への定期清掃の業務委託をおこなうとともに、老朽化した駅併設のトイレの洋式化を実施したところであります。

一方、輸送の安全確保の取り組みとして、6月には自社単独、10月には隣接する鉄道会社との合同で列車が駅間で故障・停車した場合を想定した列車救援の訓

練を行いました。また11月には地元警察・消防と連携して、震度7の地震発生により走行中の列車が踏切手前で列車停止したとの想定で、負傷したお客様の迅速な救護を目的に、総合事故対応訓練を実施しました。2月には、開催が迫った大阪万博などでの旅行需要増に伴い、様々なトラブルの増加も想定されることから、県警本部の全面協力のもと、列車内での乗客同士の喧嘩で刃物を持って暴れているなどとの想定で訓練を実施しました。今後もこうした訓練の機会を通じて、関係機関との更なる連携を深めてまいります。

最後に去る3月15日に実施した県内全線開業後初のダイヤ改正であります。JR時代を含めて22年ぶりに復活した快速列車を含め、朝夕の通勤通学時間帯を中心に計7本の増便を実施したところであります。大聖寺駅・金沢駅では快速列車の運行を記念した出発式を行い、金沢駅では北陸新幹線の開業10周年・1周年のイベントと共同で当社ブースの出展を行い、当社公式マスコットキャラクター「あいまるくん」のぬいぐるみのほか、当社オリジナルグッズや並行在来線他社と連携した記念グッズを発売し、多くのお客様にご来場いただきました。

2. 対処すべき課題

2024年3月16日の県内全線開業から1年を経過し、ご利用状況もやや落ち着きが見られる中で、今期の取り組みを継続するとともに、2025年3月15日に実施した改正ダイヤについてお客様の声を聞き、その効果を検証しつつ、必要な施策を随時展開し、更なる利便性の向上と利用促進に繋げてまいります。

また現在190名程のJR出向者を、今後9年間で順次返還する必要があるため、年20～30名程度の新規採用者の確保が最重要課題であります。全国的に売り手市場の採用環境において選ばれる企業となるために、認知度の向上が課題であります。当社が地域に寄り添った取り組みを実施している働き甲斐のある企業であることを、ホームページやSNSで広く発信・周知して認知度向上に繋げていきます。

引き続き、安全安定輸送を最優先に、地域と連携した魅力ある企画を積極的に展開し、地域から愛され信頼され、地域と共に成長する鉄道会社として、全社員一丸となって取り組んでまいります。

貸 借 対 照 表

令和 7 年 3 月 31 日 現在

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流 動 資 産	5,552,840	流 動 負 債	2,499,257
現金及び預金	3,731,333	未 払 金	1,823,244
未 収 運 賃	86,295	未 払 費 用	9,312
未 収 金	1,437,819	未 払 法 人 税 等	183,587
貯 蔵 品	272,081	未 払 消 費 税 等	116,025
前 払 費 用	20,723	預 り 連 絡 運 賃	87,929
その他の流動資産	4,586	前 受 運 賃	198,899
		リ ー ス 債 務	4,128
		賞 与 引 当 金	66,012
		その他の流動負債	10,116
固 定 資 産	1,521,972	固 定 負 債	394,534
鉄道事業固定資産	1,507,415	退職給付引当金	34,290
建 設 仮 勘 定	6,280	役員退職慰労引当金	2,430
投資その他の資産	8,275	特別修繕引当金	331,285
差入保証金	2,200	圧縮未決算特別勘定	5,756
長期前払費用	6,056	リ ー ス 債 務	17,793
その他の投資等	19	資 産 除 去 債 務	2,979
		負 債 合 計	2,893,792
繰 延 資 産	3,776	(純資産の部)	
株 式 交 付 費	3,776	株 主 資 本	4,184,796
		資 本 金	3,178,000
		利 益 剰 余 金	1,006,796
		繰越利益剰余金	1,006,796
		純 資 産 合 計	4,184,796
資 産 合 計	7,078,588	負債・純資産合計	7,078,588

損 益 計 算 書

自 令和 6 年 4 月 1 日
至 令和 7 年 3 月 31 日

(単位：千円)

科 目	金 額	
鉄 道 事 業		
営 業 収 益		6,125,025
営 業 費		5,933,941
営 業 利 益		191,084
営 業 外 収 益		
受託工事収入	504,520	
受 取 利 息	2,664	
雑 収 入	25,246	532,431
営 業 外 費 用		
受託工事支出	479,344	
株式交付費償却	2,744	
雑 損 失	5,229	487,317
経 常 利 益		236,198
特 別 利 益		
補 助 金	485,978	
固定資産売却益	254	486,232
特 別 損 失		
固定資産圧縮損	353,133	353,133
税引前当期純利益		369,296
法人税、住民税及び事業税	158,961	158,961
当 期 純 利 益		210,335

株主資本等変動計算書

自 令和 6 年 4 月 1 日
至 令和 7 年 3 月 31 日

(単位:千円)

	株主資本				純資産合計
	資本金	利益剰余金		株主資本 合計	
		繰越利益剰余金	利益剰余金 合計		
令和 6 年 4 月 1 日残高	3,178,000	796,460	796,460	3,974,460	3,974,460
事業年度中の変動額					
当期純利益		210,335	210,335	210,335	210,335
事業年度中の変動額合計		210,335	210,335	210,335	210,335
令和 7 年 3 月 31 日残高	3,178,000	1,006,796	1,006,796	4,184,796	4,184,796